

4. 浚渫事業

公共工事や民間工事を通して地域に貢献し、物を作り続けてきた当社ですが、公害の発生源を除去する河川浚渫を手掛けたのが昭和60年、その後、環境保全事業に配慮した工法「真空吸引圧送浚渫工法」を機械メーカーと共同開発し、現在までに北海道から沖縄県まで、32都道府県、272現場220万㎡以上の現場を施工するに至っております。

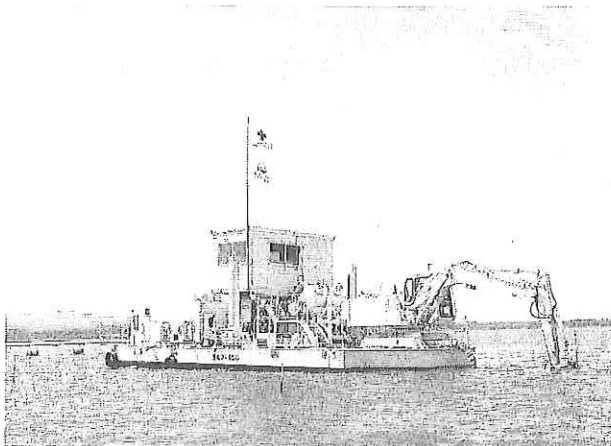


写真-2) 真空吸引圧送浚渫船

ダム浚渫や農業用水のため池等、農業土木の分野での浚渫も多く行われてきております。

これまでに、漁業が盛んな水域での実績も多く、汚濁防止フェンスの使用はほとんどなく、各方面から環境保全型浚渫工法としての高い評価を頂いています。

さらに、狭く水深の浅い場所や周辺環境に特に配慮しなければいけない場所など、従来工法では入れない現場に非常に向いている工法であります。

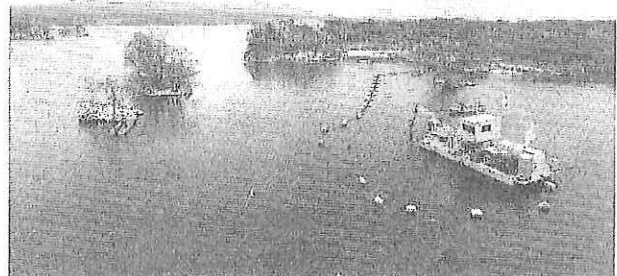


写真-5) 国定公園内での浚渫作業

5. 真空吸引圧送浚渫工法

(1) 工法

「真空吸引圧送浚渫工法」とは、高性能な真空発生装置を動力とし、特殊アタッチメントにより、汚濁をほとんど発生させることなく港湾・河川・湖沼・ダム・ため池等の底泥を直接吸引し、管路で処理地まで圧送する環境負荷を軽減した浚渫工法です。

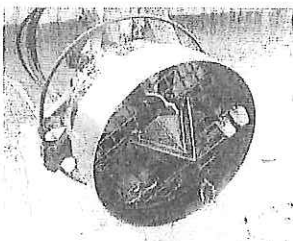


写真-3) 特殊ドラムアタッチメント



写真-4) ダムでの浚渫作業

(2) 目的

浚渫の目的には、河川等の流量、断面の確保や航路・泊地等の水深を確保する目的で行われる他、

(3) 特長

この「真空吸引圧送浚渫工法」には、大きく5つの特徴があります。

① 汚濁の発生が極めて少ない

高性能な真空発生装置を吸引動力にする事で、強い吸引力を発生させ、併せて特殊アタッチメントの底面部から直接汚泥を吸引することにより、汚濁の拡散を抑えて浚渫することが可能です。

表-1) 濁り発生原単位測定結果
(※国土交通省港湾局 平成16年4月策定)

工法	使用船舶	型式	取扱い土砂	
			細粒土	発生原単位 (g/m³)
浚渫工	グラブ浚渫船	3m	○	17,110
	密閉グラブ浚渫船	8m	○	3,500
	バックホウ浚渫船	2m	○	8,560
	ポンプ浚渫船	1,000ps	○	590
	汚泥浚渫船	147ps	○	280
	真空吸引圧送浚渫船	5AP-350	○	40